

厚小だより

平成28年9月30日 発行

学習指導要領の改定と学校教育

校長 酒井 裕之

お父さん、お母さんが小学生だった頃、『生活科』や『総合的な学習の時間』の勉強はありましたか？

『生活科』は平成4年度から1年生と2年生に、それまでの社会と理科を廃止して導入されました。具体的な活動や体験を通した「気付き」を大切にするとともに、幼児教育から小学校教育へのスムーズな移行を目指すものでした。

『総合的な学習の時間』は平成14年度から3年生以上に導入されました。社会の急激な変化に主体的に対応できる力を育成するために、学校が創意工夫を生かして特色ある教育活動を展開できる時間として設定されました。生活科と違って教科書はありません。毎週土曜が休みになったのもこの時からです。

平成23年度からは『外国語活動』が5年生と6年生に導入されました。急速に進む国際化により国際理解や国際協調の重要性が増し、平成14年に文部科学省が打ち出した「英語が使える日本人の育成」以後、時間をかけての実施でした。英語によるコミュニケーションに親しむことが中心で、書いたり読んだりする学習は求められていません。

平成27年の学習指導要領の一部改正を受け、平成30年度から『道徳』が教科化されます。『道徳』の教科書が配布されますし、評価も行うこととなります。

平成32年度からは新しい学習指導要領が全面実施となり、3年生と4年生に『外国語活動』が35時間、5年生と6年生に『外国語（英語）』が70時間導入されます。これにより、3年生以上は週の授業時間数が1時間増えます。文部科学省が「平成30年度から段階的に先行実施」と言っていることから、30年度からの実施も想定されます。中学年の外国語活動の内容をどうするか、外国語の教科書は32年度に配布されるが、先行実施2年間の教材は事前に配布されるのか、英語指導に関する教員研修はどうなるのか、そして、最も頭を悩ませているのが週の時間割です。今でさえ学校は窮屈な時間で動いています。放課後に子どもとじっくり…という時間を作るには、自分の仕事を後回しにするしかありません。

会議や打合せのある日は、それが終わってからが勝負です。退勤時刻がとくに過ぎているのに、授業の準備をする先生、テストやプリント等の採点と評価に追われる先生、お便りをつくる先生、家庭と連絡を取り合う先生、会議や打合せの資料をつくる先生……

北海道教育委員会からは、教員の勤務時間縮減に関する通知が繰り返

現在の時数（4年生以上）

	月	火	水	木	金
1	1	7	13	19	24
2	2	8	14	20	25
3	3	9	15	21	26
4	4	10	16	22	27
5	5	11	17	23	28
6	6	12	18		

平成32年度～（4年生以上）

	月	火	水	木	金
1	1	7	13	19	25
2	2	8	14	20	26
3	3	9	15	21	27
4	4	10	16	22	28
5	5	11	17	23	29
6	6	12	18	24	

し届きます。だからといって早く帰しても仕事を家に持ち帰るだけです。家庭教育が大事と言ってもおきながら、教員の家庭はどうなるのか？校長のジレンマです。

平成32年度（先行実施だと30年度）、益々窮屈になる学校ですが、学校の教育力も教員の健康も低下させないように知恵を絞らなければなりません。

<10月の行事予定>

日	曜	おもな予定
1	土	※牡蠣祭りにつき自転車乗降禁止
2	日	※牡蠣祭りにつき自転車乗降禁止
3	月	学芸会特別時間日程開始～23日まで
4	火	全校朝会
5	水	ALT来校 パートナーティーチャー来校
6	木	
7	金	離任式 校内研究会 PTA家庭教育学級懇談会（夜懇）19時～
8	土	※牡蠣祭りにつき自転車乗降禁止
9	日	※牡蠣祭りにつき自転車乗降禁止
10	月	祝日 体育の日 ※牡蠣祭りにつき自転車乗降禁止
11	火	
12	水	全校朝会
13	木	図書館バス
14	金	
15	土	
16	日	
17	月	着任式
18	火	
19	水	学芸会総練習（児童公開日）
20	木	
21	金	
22	土	
23	日	学芸会（一般公開日）
24	月	振替休日
25	火	学芸会后片付け
26	水	ALT来校 4年生校外学習（ごみ焼却処理場）
27	木	図書館バス
28	金	児童委員会 読み聞かせ
29	土	土曜授業日（3時間授業）給食なし
30	日	
31	月	新1年生スクリーニング検査

帰宅時刻は、**17:00まで**になります。

学芸会特別時間日程期間は、ほぼ毎日
に渡って「劇」「器楽」「合唱」等の練習が予定されています。
演目によっては、衣装や小道具の準備もあるかと思えます。
気温が下がり、寒くなり始める時期でもありますので、体調管理にご留意していただきたいと思えます。

<今後のPTA関係の緒行事について>

- 10月7日（金） 家庭教育学級懇談会 19時～ 各学級毎に実施
 - 情報端末機器に関するアンケート集約結果からの意見交流
 - 生活リズムチェックシート分析結果からの意見交流
 - 厚小まつりでの出店概要 など
- 11月6日（日） 釧P連研究大会・母親研修会（釧路町） ※研修部で各学年毎の参加者を決定済
- 11月19日（土） 町P連研究大会（厚岸中学校） ※研修部から「夜懇談会」の際に確認
- 12月4日（日） 厚小まつり ※後日に学年代表と三役による合同会議を実施して詳細を決定

体力アップの秋～町体力測定記録会・ランランウィーク～



町内小学校の3年生以上が集まって「50m走」「ソフトボール投げ」「立ち幅跳び」「20mシャトルラン」の4種目で記録会を行いました。他の学校の同学年の人たちとの測定は、お互いに刺激があり相乗効果的に記録が伸びる結果となりました。



ランランウィークは、厚小独自の体力作り週間です。登校後の15分間程、全校児童と先生方が走り抜ける姿は壮観な光景でした。



床潭小との交流授業～第2回目～

この日は、2・5・6年生の交流でした。お互いに慣れてきた感じが見られました。



6年生対象 全国一斉学力・学習状況調査 結果考察

4月に実施した標記の調査について文科省から結果が届きました。この調査が始まって9年目となりました。厚小では、これまでの調査結果から全国平均との相関や個々の解答分析を行うことで事後の学習活動に役立ててきました。

また、各年度の結果を比較することで「厚小の学力特徴」を見出し、『どこが伸びたか』『どこに手を入れなければならないか』を明らかにして学習指導に役立ててきた経緯があります。

① 「国語A・算数A」は、主として『知識』に関する設問です。

国語Aにおいて正答率の低かった問題を以下に記します。

- ・漢字の読み→「省く」
- ・漢字の書き→「そうだん」
- ・ローマ字の書き→「りんご」
- ・ローマ字の書き→「あさって」
- ・ローマ字の読み→「hyaku」

左記の5問が全国平均に比べて落ちていたものです。ローマ字の読み書きについては、パソコンの入力でも用いるため早急な手入れが必要と判断しています。

ほぼ全国平均に近い状況でした。もうちょっとです！

算数Aにおいて正答率の高かった問題を以下に記します。

- ・計算→「905-8」
- ・計算→「4.65+0.3」
- ・直方体の面に関する位置関係
- ・計算→「(2/9)×3」

出題16問において全問正解：3名、1問不正解：4名、2問不正解：4名
特筆されることは、「無解答」が、全児童の全解答において『1問』だけであったことです。

「全員正解」という問題もありました。全国平均を上回っています！

国語Aにおいても「無解答」は、『7問』だけという結果でした。『必ず解答する』という取り組みの結果が出てきていると思われます。

算数Aは、少人数指導や通級指導等の学習指導方法の工夫により個々の児童の理解度や解答速度の向上が全国平均を上回る結果につながったものと考えています。

② 「国語B・算数B」は、主として『活用』に関する設問です。

国語Bでは、「グラフを基に分かったことを的確に書く」という設問に対しての正答率が、全国43.4%に対して厚小64.7%となったことが特筆されます。

資料中のポイントやキーワードを見つけ出し、それらを効果的に使って文章にまとめる
取り組みの成果が出てきたものと思われます。

書く力の向上が見られます。全国平均を少しだけ上回っています！

算数Bでは、「示された式の中の数値の意味を説明する」「角の大きさを基に式の意味を説明する」等の設問における正答率がそれぞれ29.4%、11.8%と低いものとなっていました。

問題の意味を理解し、解決方法を『説明する力』が求められている

ここが厚小の弱点です。全国平均までもう一息です！

国語AB・算数ABそれぞれに「無解答」が減少したことは、問題処理速度の向上に起因していると思われます。一方、『説明する力』の底上げが必要であることも明らかになりました。